

令和6年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。

・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(道徳) 教科主任名 久保田隆夫

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜○成果 ▲課題＞

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて まとめ
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	
知識・技能	1年	○各単元のねらいや目的を理解しようとする生徒が多い。 ▲学習したことを実践につなげる指導の工夫。	毎日の学校生活の中で、道徳での学習と関連する機会を設ける。	1年			
	2年	○ねらいとする価値を理解することができる生徒が多い。 ▲学校生活の中で生かせる生徒は限られる。	毎日の生活の中で、それまでに学習した道徳内容項目(価値)を結び付けて考える機会を増やす。	2年			
	3年	○各項目のねらいとする価値においては、授業を通して概ね理解できている。 ▲毎日「の生活にどう生かしていくか、具体的に考え、実践につなげる必要がある。	授業だけではなく、毎日の様々な活動においても、状況に応じて自分と関連付けて考えて行動するよう働きかける。	3年			
思考・判断・表現	1年	○自身だけではなく他者の気持ちを理解しようとする生徒が多い。 ▲内容理解を困難とする生徒もいる。	自分事として捉えたり、他者の気持ちを知るなど、班活動等を通して多くの感情に触れる機会を設ける。	1年			
	2年	○物事を多面的・多角的にとらえられる生徒が増えてきている。 ▲内容項目によっては理解が難しい生徒もいる。	「他者に関すること」よりも「自身を見つめる」ほうが苦手な生徒が多いため、両者ともバランス良く内容項目を扱うように努力する。	2年			
	3年	○授業を通して多様な視点から生き方を考えられるようようになった。 ▲内容項目や教材によっては、自らの行動と関連付けて考えることが難しい。	自らの行動と関連付けて考えることが難しい項目に関しては、導入や発問の工夫が必要である。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	○ワークシートやペア活動では、自身の思いや気付きを書き留めることができる。 ▲発言は比較的多いが、特定の生徒に偏る傾向がある。	道徳の授業だけではなく、日ごろから各教科と横断的に発表しやすい雰囲気をつくる。また、ICTを活用し、生徒が自分の考えを他と共有しやすい場を設定する。	1年			
	2年	○他者の意見を聞き、自分の考えと照らしてから考えをまとめ、文章で表そうとする生徒が多い。 ▲みんなの前で発表するのが苦手な生徒も少なからずいる。	小グループまたは生活班での発表から、少しずつ発表するグループを拡大していく。	2年			
	3年	○少人数の意見交流は比較的活発に行える。 ○発問の回答や授業の振り返りを丁寧に記述することができる。 ▲みんなの前で口頭で意見を発表するのが苦手な生徒も少なからずいる。	生徒が自分の意見を発表しやすい雰囲気を作るために、少人数集団の発表から段階的に大人数でも発表できるよう、授業の流れを工夫する。	3年			